

シマムセンオーディオ試聴会 (2022.12.17)

—PIEGA Coax611 試聴会—

1. はじめに

シマムセン CYMA で開催された PIEGA Coax611 の試聴会に行ってきました。

2. 使用機器等

開催要項は、下記のとおりで 12 月 17 日(土) 第①部に参加しました。



Coax 611 ブラック
(ボトムプレート付き)
¥3,124,000/ペア(税込)



OCTAVE HP700SE
¥2,970,000(税込)



OCTAVE RE320
¥2,310,000(税込)

12月17日(土)の試聴会は各回15名様完全予約制につきご予約をお願いいたします。

12月17日(土) 第一部 13:00 ~ 14:30
第二部 15:00 ~ 16:30

12月18日(日) 13:00 ~ 16:30
上記のお時間ご自由にお聴き頂けます

講師:メーカー担当者
会場:CYMA 2F試聴室

日時	2022年12月17日(土) 第①部 13:00~14:30 第②部 15:00~16:30 講師:輸入代理店担当者
	2022年12月18日(日) 13:00 ~ 16:30 日曜日は試聴会ではなく上記の時間内でご自由にご試聴いただけます。 講師:輸入代理店担当者
	[使用機材リスト] [プリアンプ] OCTAVE HP700SE [パワーアンプ] OCTAVE RE320

[スピーカー]

PIEGA COAX61



当日のセッティング



プリアンプとパワーアンプ



LINN KLIMAX とアンプ用強化電源

3. 試聴の経過

PIEGA Coax611 の改良点に関する解説を交えながらの試聴で、音源はすべて LINN KLIMAX から供給されるファイル音源で試聴が進みました。

PIEGA の特徴は、何と言ってもツイーター領域とミッド領域のリボン型の駆動部で、プッシュプルに変わったとか、ダンプ機能が変わったとか、クロスオーバーが 600Hz から 450Hz になったとかのことでした。

試聴は、まず、カンターテドミノのクリスマスソング、音楽ではありませんシャッターを叩いたり開閉するとかの録音、リストのラ・カンパネラ、アコースティックギターソロなどから開始しました。カンターテドミノのソプラノ、ラ・カンパネラのピアノは細かいニュアンスまで表現されていました。シャッター音やギターは立ち上がりの良さを示していました。

次の大太鼓とチェロ協奏曲では、大太鼓の重低音は迫力がありましたが、チェロの音色とバックのアンサンブルは生音とかけはなれた印象です。

女性ボーカル、シューベルトの鱒のバリトン、女性ボーカルは説得力のある表現で

す。

マリンバ、ヒュージョン、ケルティックウーマンのボーカルの表現はリアルでしたが、ケルティックウーマンのバックのフィドルらしい弦は精彩を欠いています。最後の展覧会の絵もチェロ協奏曲と同じく、オーケストラの音の分離と協和が、今一つで騒がしさが付きまといました。

4. まとめ

今回のシステムは、非常にパフォーマンスの高い音楽ジャンルがあるのに対し、クラシックの表現力には物足りないところがありました。昨今のハイエンドに共通する問題かも知れませんし、送り出しの LINN のネットワークプレイヤーの問題であったかも知れません。クラシックの評価については、アナログなど、送り出しを替えて聴いてみる必要がありそうです。

以上